



前回のFP情報通信は宮崎県日南市の鵜戸神宮のことについて記しました。鵜戸神宮は日本三大“下り宮”のひとつで、他には群馬県の貫前神社と熊本県阿蘇郡高森町にある草部吉見神社があるということをお伝えしましたね。前回のFP情報通信をご覧いただいた方から「山本さん！高森町にある草部吉見神社のことについて触れていたけど、是非、行ってみた方がいいよ。今までにない感覚になると思うから。」と連絡がありました。こういった情報を耳に入れるとすぐに行きたくなるタイプなので2日後に車で1時間半かけて出かけました。2回連続の神社ネタをお許してください。(苦笑)

この神社の隣町にはあのパワースポットで有名な幣立神社があり、幣立神社は階段を上っていく途中から神秘的な感覚になります。この草部吉見神社も同じような感覚になったのを鮮明に覚えています。違いは下っていくことです。日本にある殆どの神社は上り宮なので下っていく珍しさからいうと初めての感覚ではありません。鳥居から階段下に見える社殿に吸い込まれていくような感じですよ。

この神社は神武天皇の子である日子八井命（ひこやいのみこと）がこの地に住んでいて大蛇を倒したという逸話を元に建立されたそうです。

社殿の横に鳥居があり、そこをさらに下っていくとため池がありました。そのため池を鋭い眼差しで見張っていたのは写真にも写っている大蛇です。日子八井命が倒した大蛇だと思うのですが、子供から「なぜ、倒された大蛇がこの池を見張っているの？」と聞かれ、私もその時は確かにそうだと思ったのですが、後に調べると、日子八井命が倒した大蛇は「吉ノ池」に住んでいたそうで、大蛇を倒した後にこの吉ノ池を埋めてこの神社が建立されたということです。その証として大蛇を置いたのでしょうか。かなり私的な憶測が入ってますので、大目にみてください。(笑)

年末の寒い時期に行ったので参拝をしてすぐに帰ろうとしたら、社殿横に見たこともないような大木がありました。樹齢1000年だそうで、壮大な自然に圧倒されました。小学3年生の長女も並ぶと豆粒くらいにしか見えません。

皆さんも是非、足を運んでみてください。とても凛とした気分になりますよ。

